

南淡路地域における耕畜連携の取組（洲本市、南あわじ市）

WCS用稲を中心とした耕畜連携システムを再構築。



【収穫したWCS用稲】



【堆肥散布】

1. 取組概要

- 南淡路地域は、乳用牛、レタスや玉ねぎの兵庫県内の最大産地。地域では、かつて畜産（乳用牛・繁殖和牛）+水稲+露地野菜を組み合わせた耕畜複合経営が盛んであり、農家は稲わらと堆肥を循環利用していたが、経営の効率化等により畜産と耕種それぞれ専門化が進み、稲わらと堆肥の利用が衰退。
- 結果、畜産農家は堆肥処理と飼料経費の増加、耕種農家は地力の低下と稲わらすき込みによる窒素飢餓等それぞれが課題を抱えるようになった。
- 課題解決に向けて、耕畜連携の再構築を図る取組として平成12年から露地野菜圃場での堆肥利用の促進、平成16年から機械導入による効率的な稲わら収集作業体系の確立に向けた取組を実施。
- その後、当初の課題解決にはつながったものの、稲わら収集作業と堆肥散布を担う畜産農家に係る労力が短期間に集中。また、稲わら多給による飼料給与バランスの崩れといった新たな課題にも直面。
- このため、水稲より約1か月収穫が早く、飼料価値が稲わらより高いWCS用稲を平成25年頃から導入。労力分散と栄養バランスを確保したWCS用稲及び堆肥利用の新たな耕畜連携システムを構築。
- 令和5年には、WCS用稲の作付面積は兵庫県全体966haのうち515ha(53%)を占めるまでに増加。

2. 耕畜連携に係る作業体系例



3. 実績

